必見！大学生いち押し グルメ！(和)食!!

プロジェクトメンバー
馬場 俊平　一之澤 綾，大隅 貴裕，川口 友美絵，佐原 颯，中上 紗耶加，中田 吉美，中西 美佳，中村 昌平

指導教員
鈴木　裕範　(経済学部)

[演習の背景・目的]

友人から「和歌山には何もない」、「何をするにしても、県外に出ないと何もない」などの声をしばしば私たちは耳にした。しかし、実際はそういうわけではなく、あまり知らないだけと思われる。そこで、私たちは学生に和歌山の良さを知ってもらうべく情報誌を作成しようとチームを結成した。今回は和歌山の良さを知ってもらうという点の中から“食”に関して、つまり和歌山に存在する安くておいしい学生でも気軽に足を運べる飲食店を紹介していこうと考えた。食というのはそれだけで多くの人が集まるものである。情報誌を作成することで和歌山の経済活性化の為に少しでも貢献ができれば、と思っている。

そして、その情報誌はフリーペーパーという媒体にすることにした。その理由としては、誰でも無料で読むことのできるものにしたかったことの他に私たち製作者にとっても様々な勉強や経験ができると考えたからである。例としては、まず製作者の立場からフリーペーパーとは何かという理解が深められることが挙げられる。他には広告を載せることは、広告を載せた製作者、載せられた業者、さらには読者にとって、どのようなメリット・デメリットがあるのか、取材時や製本時にかかる苦労や努力、費用とはどういったものなのか、についても体験的に学ぶことが出来ると言える。

[演習の実施方法]

１．取材の練習
２．実際に飲食店での取材(情報収集)
３．スポンサー集め
４．情報誌、フリーペーパーセボンの発行
５．アンケートの作成と結果考察

１．取材の練習

取材と言っても私たちは一体何をどのように聞けば自分たちの知りたい情報が聞きだせるのかが全く分からなかったので練習として、経済学部の足立先生のゼミで行っているというカフェについて足立先生にインタビューさせて頂いた。この時は、２時間ほどお話をさせて頂いたが、このインタビューの時間からも分かるように明らかにインタビュー能力が低いと感じた。それをインタビューを行ったメンバー全員が自覚したことがこのインタビューの一番の収穫であった。

２．実際に飲食店での取材(情報収集)

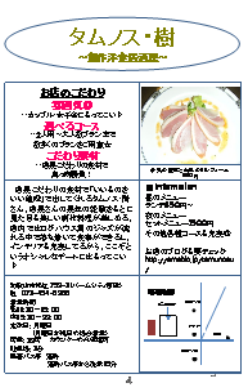
オススメの場所や行ってみたいお店をピックアップし、二班に分かれて取材活動を行った。お店選びの際に重んじたことはあくまでも和歌山大学の学生が訪れやすいことか、ということである。特に値段は学生にとってそのお店に行くか否かにおけるもっとも大きな要因であると考えて選んだ。

初めて取材に行ったときは取材の練習をあらかじめ行ったことで若干であるが緊張や話の進め方などが良くなっていた。その後も毎回取材ごとに、良かった点と悪かった点を考えることで自分を含めメンバー全員のインタビュー能力の向上が見られた。短時間で聞きたいことを聞けるようになり一日に複数のお店の取材をすることも可能になった。

３．スポンサー集め

スポンサー集めは学生向けのフリーペーパーであることをウリにした。第一号はお試しということもあり広告費をもらわないで広告を載せるという形にしたことですぐに広告を集めることに成功したが、第二号の一般と同じ様に広告費がかかる分に関しては広告を集めるのに非常に苦労した。電話で説明し、お願いしてもなかなか上手くいかなかったので直接足を運ぶことでお願いした。今後は様々な企業やお店から広告を掲載して頂ける様に情報誌に載せるコンテンツや記事のクオリティの向上が求められる。

４．情報誌、フリーペーパーセボンの発行



フリーペーパーは、大学構内で配布した。一般のフリーペーパーの様に単にどこかに置いておくだけではおそらく、見て頂けないので配布の仕方にも工夫をした。具体的には、、部活・サークル内で配布してもらう、直接シンボルゾーンで配布、生協前で置くなど様々な方法で手に入れてもらえるようにした。

５．アンケートの作成と結果考察

表１はアンケートに協力した和歌山大学に通う学生を学部別に色分けしたものである。今回アンケートに協力してもらった生徒は 263 名で経済学部が約半数、他はそれぞれ教育学部、観光学部がほぼ同等で分け、総数の一割程度をシステム工学部が占める。

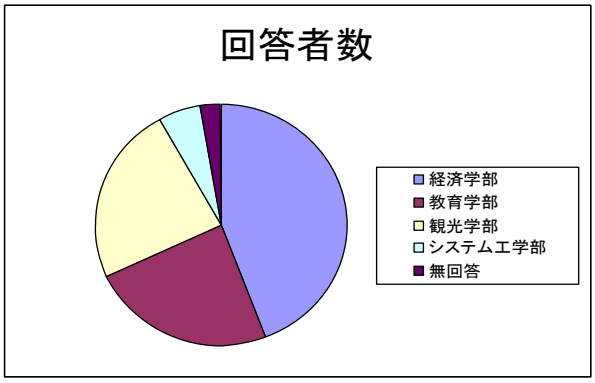
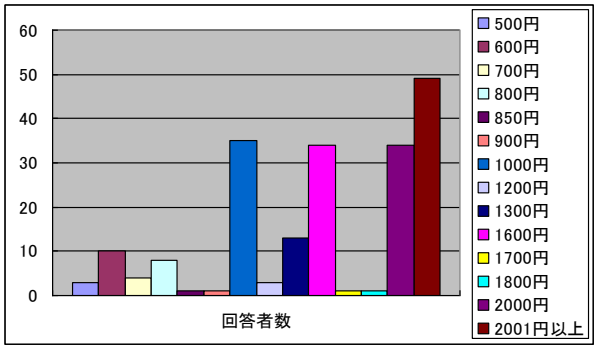
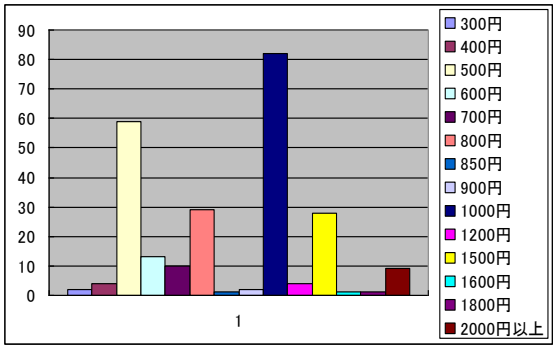


表１:読者学部別

以下二つのグラフはアンケート Q2 におけるそれぞれ昼ご飯、晩ご飯の「一回の食事でいくらまで出せるか」という食に対する金銭感覚についてまとめたものだ。これらのグラフから昼ご飯と晩ご飯の最大に出しても良い金額が前者に対し後者が二倍であり、多くの学生が昼ご飯よりも晩ご飯に重きを置いていることが分かる。お昼ご飯に関して、学生は普段、学校で安価でボリュームのある学食を利用、さらに最近ブームである 500 円でお昼ご飯を食べられる「ワンコインランチ」の存在もあってかお昼ご飯は 500 円程度で済ませる人も多いようだ。それと比較してイタリアンなどのコース料理は 2000 円以上のものも多く、また一般的な大学に入学し、サークルなどの付き合いで晩ご飯中にお酒を飲む機会が増えたこともお昼ご飯時と晩ご飯時の金銭感覚が大きく違うことに関係しているのではないだろうか。お昼ご飯を安く済ませ、晩ご飯は友人たちと食べ放題のお店でお酒を嗜み、交流を深めているようである。





表左:お昼ご飯

表右:晩ご飯

Q11 においてセボンに対する意見、感想、要望などを募った所...

・値段、平均予算の記述
・クーポンの付加要望
・ランキング形式での発表
・アルバイト情報掲載
・地図を分かり易くしてほしい
・地元の人でしか知りえないような隠れ家的なお店のレポ　etc..

アンケートから

今回のセボン初期号は取材者それぞれ自由にデザインした為、値段や平均予算を記述している者、していない者がおり、次回からはそれらを特記事項として読者に分かり易く伝える。いまやどのフリーペーパーにもクーポンは掲載されており、読者の中にはクーポン目的でフリーペーパーを手に取る人も多い。また、このフリーペーパーのターゲットである大学生が敏感であるアルバイト情報、クーポンの掲載を行うことでよりセボンの利用者、認知度が上がると判断し、次回号から取り入れることにした。

また、フリーペーパーを手に入れることができる場所が分かりにくいという指摘を受けた。冊数の増加とさらなる配布の方法などを考える必要がある。また内容を向上させ、口コミによって認知度をアップさせるようにする。

必見！大学生いち押しグルメ！
(和)食!!

アンケート

(男・女)（)回生（　　)学部

Q1 ご飯を食べに行く時に判断基準としているものは、何ですか？
　ア、値段　イ、雰囲気　ウ、味　エ、メニュー　オ、距離　カ、その他(　　)

Q2 普段ご飯を食べに行く時、いくらぐらいまでなら出しますか？
昼御飯（　　)円
夕御飯（　　)円

Q3 右の写真のフリーペーパーの存在を知っていますか？
　はい・いいえ　　いいえ の方(Q11 へお進み下さい)

Q4 右の写真のフリーペーパーを見たことがありますか？
　はい・いいえ

Q5 セボンに載っているお店は知っていましたか？
　はい・いいえ

Q6 セボンを見て、行きたくなったお店はありますか？
　はい・いいえ

Q7 実際に利用しましたか？
　はい・いいえ

Q8 次回に載せてほしい店はありますか？
　はい・いいえ　　店の名前(　　)

Q9 このフリーペーパーは役に立ちましたか？
　はい・いいえ

Q10 行ってみたい飲食店の名前を教えてください。
(　　)

Q11 内容へのご意見や、フリーペーパーで欲しい情報があればご記入お願いします。
(　　)

ご協力ありがとうございました。フリーペーパーは学生会館にあるので、ご自由にお取り下さいませ。

［今後の課題］

・クオリティの向上

　フリーペーパーに掲載している飲食店の記事の書き方や地図など、内容についての課題が多くある。少しでもレベルアップするために一般に読まれているグルメ情報誌やフリーペーパーを教科書として利用する。さらに、読者に飽きられないために新たなコンテンツや特集を組むことが必要である。

・人数の少なさと今後

　このプロジェクトが今年限りで終わらせないようにするためにも新たな仲間をつのり、さらには後輩に継承していかなければいけない。そのためには、まずG-Shockという団体の認知度アップをはかる必要がある。

［感想・まとめ］

このプロジェクトを通して私たちは学べたことや経験できたこと良かったことがいくつもあった。まず第一に、インタビュー能力やコミュニケーション能力、記事を各能力の向上である。こういった能力は普段生活しているだけでは中々養うことのできない能力だと言える。取材のアポイントをとる時の話し方などもその一つであり身に着けることが出来た。

　第二に、人の輪が広がったこともプロジェクトのおかげである。お世話になった先生などはもちろんのこと、取材時にも沢山の人と出会い、プロジェクトのこととは直接関係のない話であっても色々な話を聞きその人たちから多くのことを教えて頂いた。そして、それらの話を吸収し自分たちなりに考えることが出来た。

　第三に、チームとして団体として動くことの大切さを感じた。この少ない人数のなかで今回のプロジェクトを行うにはそれぞれ個人が自分の役割を考えどのようにすればチームとして前進できるのかを常に考えておかなければならない。加えて、それぞれが責任感を持たなければならないのは必至である。

これらのことにより、私たちはプロジェクトを企画した初めの時より一回りも二回りも成長することができたように思う。今後はこれら学んだことを友人や後輩などに伝えることが必要だと感じた。